

「じゃあ、どこにあるの」

「かわー、かわー」

からすはわらいながら、とんでいってしまいました。

ねこは、川へやってきました。

川は、きらきらながれていました。

でも、とっても小さな川だったので、とっても小さなさかなしかいません。ぱくんとたべて、もうおしまい。

「わたし、もすこし大きなさかながたべたいな」

ねこは、ヒゲについたしずくをはらっていいました。

「それじゃあ、おにいちゃんのところへいくといいよ」

と、とっても小さな川がいました。

「ぼくはへとつても小さな川」だけど、おにいちゃんはへもすこし大きな川なんだ」

そこでねこは、川にそってあるいていくことにしました。しばらくいくと、ちょっと小さな川は、もすこし大きな川にであいました。

「やあー」といって「さあいこうー」といって、川はいっしょに、ぴゆるぴゆるながれていきます。

ねこは川をのぞいてみました。います、います。もすこし大きな川には、もすこし大きなさかなが、きらりとひかりながらおよいでいました。

川ぎしのいわから、青みどりのかわせみがさつととびたち、チーッとないで、さかなをとっていきました。

ねこもまねしてつかまえようとしました。でもさかなは、ひらり、ねこの手をすりぬけておよいでいきます。

「ざんねん。もうちょっとだったのに」

ねこはあきらめません。もういっかい。しっばい。もういっかい。からだをのりだし、ねらいをつけて……。

そのとたん、バッシャン！

ねこは川におちてしまいました。

ねこはねこだもの、いぬかきはできません。ねこかきでバシャバシャおよぎました。

「う、ぶくぶく……」

ねこが「もうだめ」とおもったとき、丸太がながれてきて、ねこにコツンとあたりました。

ねこはねこだもの、ツメを出して丸太にしがみつき、よじのぼりました。

丸太は、ぶかりぶかりながされていきます。

かぜはそよかぜ、空はまっ青、お日さまはさんさん。

ねこは、だんだんいきもちになってきました。「にゃん、にゃんや、にゃあくん」

はなうたも出てきます。それにあわせるように、とおくから「どっ、どど、ど……」きこえてきます。

「にゃん、にゃんや、にゃあくん」

「どっど、どど、どどどー」

だんだん音が大きくなってきました。